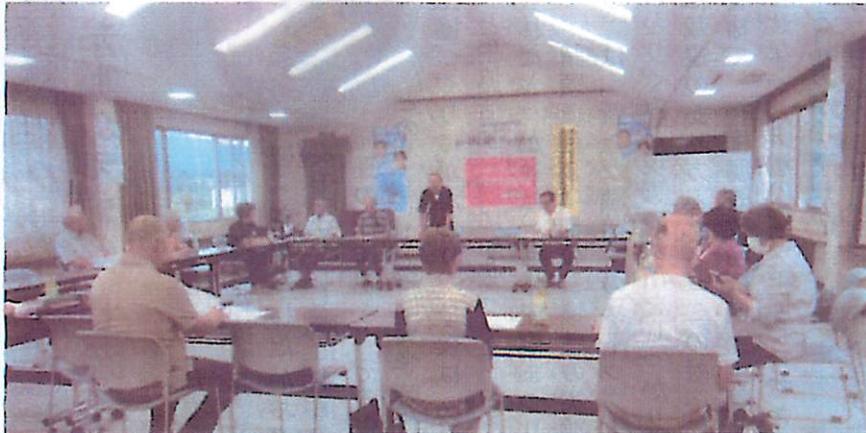


上小更埴支部総会

支部同盟員120名めざす方針決定 立澤和樹さん講演に感動



上小更埴支部は、9月21日、26名の同盟員が出席して支部総会を開催。会員拡大120名（現在104名）署名目標3000筆（昨年は2620筆）などの方針を決定しました。第1部では、東京葛飾退職教職員の会会長の立澤和樹さんの「2・4事件」で検挙された父・立澤千尋さんについてのお話を聞きしました。あらためて「事件」の卑劣さに怒りを、そして千尋さんの誠実な人柄に感動を新たにしました。



長野県版
第523号
2024年9月15日

治安維持法国賠同盟
長野県本部
〒380-8790
長野市県町593
高校会館内
連絡 大石信之
TEL 0268-38-7685

2・4事件

父はなぜ検挙されたのか

—父の日記と短歌を通して—

立澤 和樹



《父千尋さんを語る立澤さん》

月4日を期してはじまつた「2・4事件」の弾圧は、検挙者608名、内教員は138名。父・千尋は中箕輪小学校に勤務し、2月20日に検挙されました。その時の心境を1か月後の日記に、「己はきっと中箕輪に帰っていく、幾年後になつても必ず帰つて身の証明をせねばならぬ」と強い決意を述べ、「眼鏡はずし見給ふとする父上に帽子握りて吾は座りぬ」と悔しい気持ちを短歌に綴っています。

父は「教労」も「新教」も知らないで友達から本を預かっていただけで検挙されたが、それは特高警察の「あらゆる組織に亘り非常に軽易なものでも必ず取り調べる」という方針で捕らえられたのです。拘留は半日ほどでしたが、「復職可能な退職」という重い処分でした。それから月1回の「反省」の「手記」を校長に提出し、1年2か月後、復職ができました。

復職後の父は、県の拓務課と信濃教育会の方針にもとづく大陸への進出と侵略を担う満蒙開拓青年義勇軍の送出に努めます。信濃教育会は1886年創立され、早くから海外志向を持つてい

(以下次ページ下段へ)

日本国憲法の素晴らしさに感激

活動の本流は生協活動一筋に



治安維持法と「千代子」の時代＝日本近現代史の研究家と誰もが思う。どこで学習・研究されたかお聞きすると、映画「千代子」上映に中信地区実行員会の事務局長の任に就き、その資料作りがきっかけとのこと。本業は大学時代に生協活動に魅せられ、地域生協づくりにかかわり、最後は「CO-OPながの」で終わりました、と生協活動一筋に頑張つてこらました。

同盟に入られたきっかけは、信州赤旗まつりの時、峰村晃輔さんに誘われて。請願項目3項目の「犠牲の実態を調査し、その内容を公表する」は「新たな戦前」のステップ上でも大きな力になる、と国賠のとりくみと現実の政治をしつかり結びつける。

自民党の総裁選のあり方とマスコミの対応に対し「ヒドイ！」の一語で斬り捨て、金権腐敗政治は民主主義の根幹にかかわる問題。絶対に許せない。決意のほどが伝わってきます。

憲法に対する見方が松本さんらしい。まず、表現の自由（21条）とは別に内心の自由（19条）があるのは日本だけと。さらに、被疑者の人権保護規定が31条～40条わたり詳細にあるのも世界的に類を見ない、と日弁連が評価しているとのことです。そして、最後にもう一度、請願項目第3項実現は、憲法を守り活かすため、大きな力になる強調されました。

松本隆雄さん（81歳）

憲法に対する見方が松本さんらしい。まず、表現の自由（21条）とは別に内心の自由（19条）があるのは日本だけと。さらに、被疑者の人権保護規定が31条～40条わたり詳細にあるのも世界的に類を見ない、と日弁連が評価しているとのことです。そして、最後にもう一度、請願項目第3項実現は、憲法を守り活かすため、大きな力になる強調されました。



で丁寧に書かれ、戦後にも続いています。

父の生涯は、「2・4事件と満蒙開拓青少年義勇軍を背負って生きた」と立澤さんは、父を偲びながら述懐しました。父は中箕輪小学校再赴任するという念願を果たし、58歳で退職したが、

「2・4事件」を詠んだ歌はたつた一首でした。

上小更埴支部総会で選出された役員

顧問	大石信之
会計	斎藤正徳
理事	吉澤久美
事務局長	渡部昭和
会計	清水正明
支部長	河野喜世子
副支部長	高村京子
事務局長	古市順子
会計	馬場信一
理事	中澤勘介
事務局長	坂井弘子
会計	市毛真弓

しめやかに長野県無名戦士合葬追悼会

志半ばで斃れられた5名の方々を合葬



第40回長野県解放運動無名戦士追悼会は、9月8日、長野市のホテル信濃路でしめやかに執り行われ、墓前祭は花岡平の解放戦士顕彰碑で行されました。今回の対象者は5名の方々です。

主催者団体を代表して国民救援会長野県本部会長の松島さんが、社会の進歩と革新、平和と民主主義のためにたたかった故人の遺志を継ぎ、政治革新にとりくむ決意のあいさつを行い、日本共産党長野県員会・県労連・自由法曹団からも追悼の詞が述べられました。

出席された7名の遺族を代表して藤沢詮子さんがあいさつされました。

合葬された方々

- ▲猪瀬 明司 中高支部・
- ▲柄沢 義郎 上小・更埴支部
- ▲高橋 友太郎 中高支部・
- ▲中沢 憲一 上小・更埴支部
- ▲藤沢 嘉正 中信支部
- ▲松沢 秀紀 上小・更埴支部

《遺族など追悼会の参加者》

なお中央の追悼会は、3月20日に行われ、「不屈」県版3月号に詳細に報道、ここでは故人のお名前のみお伝えします。あらためて亡くなられたみなさんのご冥福をお祈りいたします。

県内の動き

被爆80年へ原水禁世界大会大きく成功

長野県から広島へ110名参加

日本政府は核兵器禁止条約に参加せよ!!

被爆80年を来年に控え

た2024年平和大会は、国連軍縮担当上級代表をはじめ18カ国、28団体の代表が参加し盛大に行われました。核兵器禁止条約の署名国は93、批准国70。大きな希望の光が輝く世界の流れの中で開催されました。

広島・長崎集会の参加者は現地・オンライン合わせて1万人を超える、長野県からも同様の参加形態で110人が参加しました。

世界的にはウクライナ・ガザ戦争に見られるように核兵器の使用さえ画策される中、核兵器禁止条約の持つ意義と重みは測り知れないものがあります。日本政府に禁止条約への参加を求める運動を緊急に強めましょう。



《広島集会の全体会議の様子》

平和委員会が総会と講演会

長野県平和委員会は9月1日、長野市で総会（午前）と、日本平和委員会事務局長・千坂純氏の講演会を開催しました。

千坂氏は「『戦争の準備』ではなく、『平和の準備を』」とのタイトルで講演。自民党政権の戦争政策——大軍拡・大増税を厳しく批判、その根底にある日米安保条約の廃棄こそ、眞の独立と平和の力ナメ、と論理的に話され、参加者から大きな共感が寄せられました。

モンゴルへの乗馬の旅

感激

モンゴル高原でコカリナ演奏

(1) 塩尻・木曾支部 三浦みを



キスゲやオキナグサを楽しむ私と史朗

草原を馬の背にまたがつてトコトコ行つて川のほとりやお花の咲く木陰でゆつくりと休憩してまたトコトコとゲルに帰る。というのが今までのいつものパターン。

休憩の度に史朗をエイツと抱えて降ろしたり乗せたり。とても大変。

トコトコ馬に揺れて1時間ぐらい行つたらそのまま休まずにゲルに向かって帰るのが今年のかたち。

足元に咲く花たちに歓声をあげるけどゆつくりながめたり写真撮つたりができなかつた。

それでも毎日コースを変えてわたしたちを楽しませてくれた。

二十年前にお星さまになつてしまつた史朗のお父ちゃん。亡くなる前に「オレはお墓はいらないよ。大地に還しておくれ」と幾度も言つた。モンゴルに行くたびにお父ちゃんのお骨を細かくすりつぶして少しずつ持つていき、一面のお花畠や、雪解け水の透き通るような河

や、眺めの良い岩山のてっぺんやらにそっとまいてきた。

一緒に行つてくれたモンゴルのおとうさん、おかあさん、お兄さんたちも一緒にまいてくれた。

無理を承知で最後の乗馬のとき、なんとか休憩してほしいとお願いした。落葉松林の木陰で馬をおりて休憩。カラマツソウがひつそり

と咲いてキスゲも優しい色で揺れている。私と史朗が座つたところにはもう穂綿になつたオキナグサがいっぱい。元気にまたモンゴルに来ましたよ。ずっとずっとわたしたちを見守つてね。

史朗と二人、お父ちゃんの遺灰をまく。

世界中が平和になるように力を貸してね。祈りながら遺灰を撒く。

一緒に行つてくれた仲間たちもモンゴルの青年たちもみんな神妙な顔をして撒いてくれた。

乗馬のあとはゆつくり。思い思いにゲルでお昼寝したり木陰にシートを敷いてねころがつたり。なんともゆつたりした時間の流れ。

コカリナ仲間のなつちゃんがたくさんコカリナを持って行つてくれたのでコカリナ教室ができた。

初めてのコカリナだつたけどみんなたちまち優しい曲がふけるように。モンゴルの青空に向かってコカリナを吹くとなんどもよく響いていい気持ち。小鳥たちが一緒にうたつてくれたりして。

雨が降つたらみんな史朗のゲルに集まつて坊主めぐり。坊主めぐりなんてつまらん。ちゃんと百人一首のカルタ取りしよう、つて美齋津さんが読み手になつてカルタ取り。

何にも急かされない、ゆつたりしたときの流れが、身も心もほんわかさせてくれる。

出発の前、史朗の足が余りにもヨロヨロして心配だった。支えるわたしもヨロヨロだし。馬に乗つて降りるたびに史朗の足が強くなる感じがした。そこらを歩くわたしの足もなんだか元気。

すごいぞ！ モンゴルパワー。もう最後つて思つていたけど、史朗の足が強くなるのならまた行きたいなあ！ 行けたらいなあ。

手記 (3)

「治安維持法制定 100 周年」プレ集会

岩田健治と「二・四事件」

—「長野県教員赤化事件」で検挙された唯一の小学校長—

講師 井出節夫さん

今から 90 年程前の 1933 (昭和 8) 年 2 月 4 日から、長野県下で治安維持法違反の疑いで多くの労働者、農民、青年、教師らが検挙されました ('二・四事件')。時の政府は、教員が多く検挙されたため、「教員赤化事件」と大喧伝しました。その中に、校長としてはただ一人、高瀬小学校 (現佐久市) 校長の岩田健治がいました。

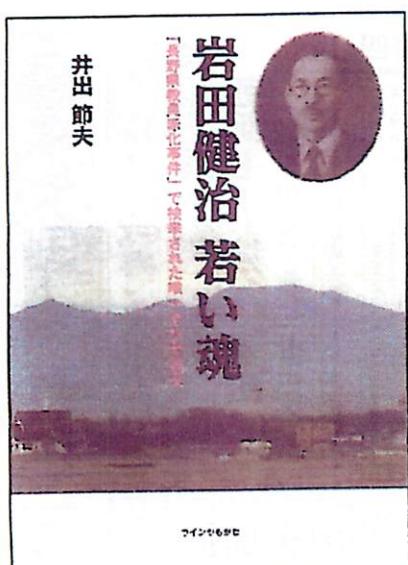
彼は若いころには、岡田小学校 (現松本市) や塩尻小学校 (現塩尻市) でも教鞭をとりました。

岩田は、子どもたちの個性を尊重し、自主的・民主的な教育を実践する中で、「二・四事件」で検挙されました。免職となり教職を追われた後、農村の立て直しのために尽力しました。

岩田の生涯を通して私たちは、「二・四事件」がいかに理不尽なものであったかを知るとともに、岩田の生きざまから多くのことを学ぶことができると思います。



岩田健治 (1897-1961)



1800 円 + 税 (当日も販売します)

2024 年

10 月 13 日 (日) 午後 1:30 ~ (開場 1 時)

松本市勤労者福祉センター 2-1 会議室

資料代: 500 円



井出節夫さん

井出節夫さん プロフィール

1950 年 佐久市白田生まれ
信州大学教育学部卒
白田町教育委員会 佐久民主商工会
白田町議 佐久市議
現在 日本国民救援会佐久支部長

「二・四事件」に学ぶ松本・長野集会実行委員会

連絡先 070-4066-2994 (佐藤喜久雄) 090-1829-5065 (原 英章)

来年は「治安維持法」制定から100年(1925-2025)

若き伊藤千代子や小林多喜二の命を奪ったことをはじめ長野県下でも数多くの人々が、戦前の治安維持法による弾圧によって、生命や健康、暮らしを破壊されました。そして、その行きつく先はアジア・太平洋戦争でした。

治安維持法は戦後廃止されましたが、日本国憲法の下で、政府は秘密保護法(2013年)や「共謀罪」法(2017年)などの法律を制定し、憲法で保障されている国民の自由への規制を強めています。「過去の悪法」だったはずの治安維持法体制が形を変えて、着々と私たちを取り巻いていると言っても過言ではありません。本集会は、2025年2月23日(日)治安維持法制定100周年に長野市で開催する集会のプレ集会として松本で開催します。



伊藤千代子(1905-29) 小林多喜二(1903-33)

治安維持法とは？

治安維持法は、普通選挙法とともに1925年に制定されました。「第1条 国体を変革し、または私有財産制度を否認することを目的として結社を組織し、または情を知りてこれに加入したる者は、10年以下の懲役または禁錮に処す」これは国体=天皇制の廃止を主張する組織(主に共産党員)を弾圧するための法律でした。1928年には、最高刑が「死刑」とされるとともに「結社の目的遂行のためにする行為を成したる者」の罰則が付け加えられました。「結社の目的遂行のためにする」行為というあいまいな規定によりあらゆる行為が处罚の対象となりました。これにより当初は主に共産党を取り締まるためのものでしたが、その弾圧対象が一般市民にまで広がることになりました。治安維持法によって検挙された人数は国内で68,332人(注1)長野県では1,222人(注2)でした。

注1:NHK「ETV特集」取材班『証言 治安維持法』2019、40頁、日本の当時の植民地まで含めれば10万人以上となる。

注2:治安維持法国賠同盟長野県本部『治安維持法と長野県』1988、42頁

「二・四事件」とは？

1933(昭和8)年2月4日から、長野県下で、ファシズムと戦争に反対し、平和と民主主義のために活動していた多くの労働者、農民、青年。教師らが治安維持法によって大弾圧されました。この事件では「教育界長野」と言われた長野県の230人にも及ぶ教員が検挙されたことから、意図的に「長野県教員赤化事件」として全国的にセンセーション的に喧伝されました。しかし実態は農民・労働運動や子どもたちに寄り添った教育運動など、今日から見れば良心的な行動や運動を治安維持法違反として弾圧し社会運動全体を壊滅させようとしたものでした。(検挙者608人)「二・四事件」は長野県民を侵略戦争へ駆り立て、全国一となる多くの満州移民や満蒙開拓青少年義勇軍を送り出す端緒となりました。

「二・四事件」の報道(信濃毎日新聞 1933年9月15日)

ば良心的な行動や運動を治安維持法違反として弾圧し社会運動全体を壊滅させようとしたものでした。(検挙者608人)「二・四事件」は長野県民を侵略戦争へ駆り立て、全国一となる多くの満州移民や満蒙開拓青少年義勇軍を送り出す端緒となりました。